

学校概要

創立	5周年	学校長 宮澤 千澄	副校長 山口 聡	学期	2 学期制	児童・生徒数	267人
学級数 一般級: 11 個別支援級: 3				主な関係校: 上飯田中学校・上飯田小学校			

学校教育目標

- 心つながり 笑顔ひろがり 世界へはばたく
- (知) ねばり強く学び、自ら高めようとする子どもを育てます。
- (徳) 互いの違いを認め合い、共に生きていこうとする子どもを育てます。
- (体) 心と体を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。
- (公) わがまちのよさに気付き、地域と進んで関わろうとする子どもを育てます。
- (開) 多様な見方、考え方を知り、国際社会に貢献しようとする子どもを育てます。

学校の特徴

飯田北小学校といちよう小学校が統合して5年目の学校で、上飯田地区から4割、いちよう団地から6割の児童が通学しています。全児童数267名のうち、外国籍・外国につながる児童は50%をこえます。全職員が一丸となってチームで、子どもたち一人ひとりを見つめ、見守り指導・支援していく体制を整えています。地域・関係機関・大学等との連携を深め、多くの方に教育活動への支援、協力をお願いしています。また、子どもたちの学力の向上のために、国語・算数科において少人数指導を実施しています。学校での学習を定着させるために、1日学年数×10分の家庭学習を進めています。地域は上飯田連合といちよう団地連合があり、大変協力的です。今後PTAとさらに協働して多様性を大切にする教育活動を進めていきます。

学校経営中期取組目標

- ◆多文化共生の学校づくりを推進します。一人ひとりの違いを認め大切にします。思いや考えを伝え認め合う力を全教育活動を通じて育てていきます。
- ◆個に応じた指導に力を入れ、学力の向上を目指します。
- ◆基本的な生活習慣の定着に全校で取り組んでいきます。
- ◆地域行事に積極的に参加したり、地域の方から学んだりすることを大切にします。
- ◆教職員が互いに切磋琢磨し、チーム飯田北いちようとして一丸となって取り組む職場にします。
- ◆命や身体を守るための指導や防犯対策を積極的に推進します。

小中一貫教育の取組

a5	ブロック	上飯田中学校・上飯田小学校・飯田北いちよう小学校
9年間で育てる子ども像	基礎基本を大切にし、地域と共に多様性を認める児童生徒	
自校の具体的取組	・ブロック内授業交流会を年2回小と中で行う。小中教職員の協働による小中一貫カリキュラムを推進する。特に今年度は、特活・総合・道徳において本校の児童の実態に合わせたカリキュラム編成及びその検証をそれぞれ担当チームに分かれ進める。 ・人権教育推進地域校の取組を中心に3校の連携を深め、小中円滑な接続のために児童生徒交流会を実施する。また、小小連携を深めるためにもお互いの指導観やスタンダード等をお互いに共有し、同じ指導をすることで円滑な小中連携を推進していく。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	個々の課題に応じたきめ細かい支援により、言語活動や読書活動等の充実を図り、語彙力や表現力、基礎学力の向上を目指す。	①週2回、朝の学習時間に授業の中では深めることができない繰り返しのスキル学習に取り組み、基礎学力の定着を図る。②週1回、朝の読書活動に、地域ボランティアによる「読み聞かせ活動」を行い、日本語独特の語彙や表現力の向上を図る。③一人ひとりの課題に寄り添ったきめ細かな少人数学習を行い、学力の向上を目指す。④宿題を出し、学年に応じた家庭学習の習慣付けに努める。
豊かな心	教育活動全般を通して道徳教育の充実を図るとともに、豊かな体験活動を通して自己肯定感を高め、他を思いやる心を育てる。	①全教育活動を通して行う道徳教育と各学級の道徳の時間を関連を図り、児童の日常体験を生かした指導を行う。②年間を通して行事や集会活動等で、異年齢集団活動を計画的に行うことで、児童一人ひとりが自分らしさを発揮し、自己肯定感を高められるようにする。③道徳教育の年間計画に沿って実践を行い、指導方法や題材・資料等検証し改善していく。
健やかな体	「早寝、早起き、朝ごはん」朝食をはじめとする基本的な生活習慣の習得と一校一実践の継続的な取組により生活のリズムの定着や体力の向上を目指す。	①元気づき会議において、「朝ごはん、朝うんち、遊び」の三つのA+菌磨きを意識した全校での取組を企画し、基本的な生活習慣の修得を家庭・地域と協同しながら目指す。②一校一実践で「体力アップ大作戦」を企画し、全校児童の体力の向上を目指す。縄跳び週間だけではなく、年間を通じて外遊びを推奨し運動できる取組を実施していく。
特別支援教育	子どもの特徴や支援方法を関係職員でアセスメントし、校内指導体制を整える。保護者と相談しながら、特別な支援を必要とする児童が安心して生活できる環境を整える。	①授業や学校生活においてユニバーサルデザイン化を全校体制で進めることで、誰にも分かりやすく、安心して学べる教育環境をつくる。全職員で共通認識を持ち取り組んでいく。②個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用により、児童一人ひとりにきめ細かい指導・支援を行えるようにする。
児童生徒理解	チーム支援体制と組織的な指導体制の確立を通して、児童一人ひとりが、学校生活の中で周囲から大切にされ、自己有用感を実感できるようにする。	①スクールスタンダードについて、全職員で共通理解を図ったうえで活用し、小さなことを見逃さない日々児童指導の推進を図る。②情報共有が活発になる職員関係づくりを進めるとともに、児童指導事項について打ち合わせの中で必ず取り上げ、共通理解したうえで同じ指導・支援を全職員で行う。
保護者・地域連携	学校・家庭・地域の連携を推進し、地域行事に積極的に参加する。学校説明会、まち懇話会を通して、学校経営方針を発信し、教育活動への協力を求める。	①防災訓練・地域清掃・防犯パトロール・祭り等、各自治会主催の活動への教職員の計画的かつ積極的に参加する。②懇話会・学校説明会(1月)においてのベトナム語、中国語等の通訳を依頼する。③年2回開催の「まち」とともに学校を考える会(まち懇)を通して児童の様子を見ていただくとともに、地域・保護者からの意見を聞く。これ以外に保護者・地域からの意見を聞ける具体的な方法を考え実行する。
多文化共生	一人ひとりが安心して通える学校は、「日本人を含め全ての子が安心して通える学校」と考え、一人ひとりの多様性・違いを尊重し合う学校を目指す。	①多文化共生を盛り込んだ授業づくり(普段の学習の発展として、友だちの国の様子などに触れる。)、②多文化共生を盛り込んだ学校行事(入学式、運動会、卒業式、フェスティバルのような学校行事に、外国につながる保護者を意識した取組を展開する。)、③外国語補助指導員の活用(学習通訳、電話相談、通訳・翻訳、母語保持教室を行う。)
いじめの対応	児童一人ひとりが安全で安心して学べる学校作りを努める。個々の違いを認め、多様性を大切にし、それぞれの良さが発揮できるような環境・風土を全職員で作っていく。	①「子どもの社会的スキルプログラム」を授業や行事等機会を捉え活用していく。②ブロック研を大切に、子どもたちを複数の目で見、情報を共有する。また、ブロックリーダーは企画会を活用し、情報交換を密にする。③折に触れ、報告・連絡・相談の大切さを注意喚起し、子どもの小さな変化を見逃さないことをチームで行っている。
人材育成・組織運営	情報の共有や目指す方向性等の共通理解を図り、組織として風通しよく、互いに支え合い、磨き合う職場にする。	①管理職・教務が中心となって、日常的な学習支援や児童指導等に関する様々な協力・支援の内容・方法を検討し、実践を支援していく。実案を活用し普段から授業が見えるような仕組みや相談できる環境作りを努める。②メンター研修をはじめ、人材育成等も含めた校内研修の計画的な実施により、不祥事防止、危機管理、児童指導等、教師力を高める。外部からの力も借り研修に努める。